

## 地域と関わる土木教育 ～郷土の史跡 九戸城の研究～

岩手県立福岡工業高等学校 都市工学科  
郷土史跡研究調査班 指導教諭 梅内 裕紀子

### 1. はじめに

本校の都市工学科では、座学・実習のほか3学年で課題研究を行っている。生徒が興味を持った課題ごとに分かれ、それを生徒自身で研究し、成果を出す学習である。

これは平成18年度の研究調査班5人による研究内容と、その調査過程で地域とどのような関わりを持つことができたかをまとめたものである。

### 2. 研究の背景

生徒たちの研究への取り組み意欲を高揚させようと「全国中高校生歴史サミット2006」（中央大学全国中高校生歴史サミット実行委員会主催）に応募することを決めた。募集テーマは、「鎌倉時代から江戸時代の始め頃までの全国の城や城下町について、自ら現地を訪ね観察するほか書籍等で調査し、事実や考えを実証的研究としてまとめる」という内容である。9月4日締切りに向け、論文（A4用紙10枚程度）に取りかかった。ちなみに、副賞は11月



大会ポスター

に滋賀県で行われるサミットに招待され、プレゼンテーションを行う機会を与えられるというものである。

その後さらに研究を進め、工業クラブ発表会へ向けてのレポート作成や模型制作も行った。

### 3. 研究内容

#### (1) 文献検索

私たちが住む二戸市の「九戸城」を研究課題として選択し、これについての文献を探すが、本校の図書館では限りがあり、二戸市立図書館を利用した。二戸市に関しての文献を手にするのは初めての生徒が多く、多くの本が出版されていることに驚いていた。これらの出版物の中から九戸城についての文章を探すのは時間を要



参考資料



二戸市立図書館で文献検索



埋蔵文化センター見学

したが、読み進めていくうち二戸市の歴史についても触れることができた。九戸城の特徴を知るため、他の県の城についても調べる必要があり、インターネット等のメディア情報も活用した。

城の築城についての文献も何冊か用意し、石垣や堀などの築城の仕方など建築構造物についてなど、歴史だけでなく土木技術の知識も得ることにつながった。

### (2) 二戸市埋蔵文化センター訪問

二戸市に関連する文献は「九戸政実」などの人物について多く書かれ、城自体についての資料は少なかった。そこで、二戸市教育委員会埋蔵文化センターに出向き九戸城の研究に携わっている方々から直接お話を伺い、既に発掘調査された資料の展示物や復元模型を見学した。



九戸城跡視察



### (3) 史跡九戸城跡視察

実際に九戸城跡を視察し、特徴を話し合い、作成した図面に沿って測量を行い、考察につなげた。また、九戸城ボランティアガイドの会の方にお話を伺い、自分達の調査内容に間違いがないか確認した。

### (4) 土木分野の実習・実験

現地踏査による測量の他、発掘調査が行われている現場に出向



土質試験

き、発掘状況を説明していただいた。そこで当時のものと思われる土を分けて頂き、土質実験（粒度試験・液性限界試験・塑性限界試験・締固め試験）を行った。それまでの調査から二戸市は十和田湖の火山灰が積もり、粘性が強い地質と思われたが、実際は有機質土が多く、シルト質の砂も入っていることがわかった。

さらに、九戸城の築城前、「九戸政実」時代の城跡に関する資料はほとんど無いが、地形が大きく変化した事実はないと考え、等高線を元に、想像の域ではあるが模型を作成した。



九戸城跡模型



#### 4. 研究成果

以上の研究結果をまとめた論文を「全国中高生歴史サミット2006」に応募したところ、特別賞を受賞し、研究内容を冊子にさせていただいた。また工業クラブ発表会で奨励賞を頂いた。

生徒は出来上がったことに満足するとともに、自分達の研究成果が評価され、認められた充実感を味わうことができ、保護者の方にも研究内容を知ってもらうことができた。

#### 5. 地域イベントへの参加

研究を行った生徒が卒業した平成19年度の春に地域イベントへの参加依頼があり、4月27日から5月29日まで行われる「九戸城歴史物語」に展示と発表会を行うことになった。イベント担当者の方は「歴史サミット2006」での入賞した新聞記事を見て依頼することを決めたという



地域イベントでの発表会

お話であった。

研究を行った生徒は現在社会人であるため、急遽本年度の3年生の中から発表者を3人選んだ。練習の甲斐があり、高評価を得ることができた。発表した本人達は二戸市の歴史や九戸城跡への理解が深まったようであり、年次をこえた郷土の勉強になった。

#### 6. アンケート結果

「九戸城歴史物語」のイベントでご協力いただいた二戸市産業振興部産業振興企画課観光物産交流室の方にご意見を頂いた。

『実際に発表をご覧になってのご意見・ご感想は…』

・二戸の歴史的遺産の研究に取り組み、広く市民にその内容を伝えることは、大変意義あること。九戸城の歴史的遺産を次の世代に引き継ぎ、多くの方々にその事実を知らしめることにより二戸を訪れる観光客も増えると思う。こうした市民の思いが一つになることに大きな意味がある。

・発表会では、会場いっぱいの観光客の中で堂々と発表し、大きな拍手を浴びて好評を得た。今後も機会を据えて、二戸の歴史遺産を多くの方々に発表していただきたい。

・生徒自らが身近にある歴史に興味を持ち疑問に感じた点を、過去の文献等や現地に赴いて解決しようとする姿勢に非常に好感が持てた。実践の場として今後も取り組んでほしい。

『高校生が地域社会に貢献する、また地域社会と交流を深めるためにはどういったことが必要だと感じていますか』

・高校生が地域社会に入って地域の方々と交流を通じて色々なことを学ぶことは、生きた道徳教育の実践だと思う。こうした活動を通して越えてはならない社会のルールを身につけていく

と思う。これからも地域社会の方々と協働で活動することを希望する。

・いつの時代もこの年代は都会への憧れが非常に強いと思うが、親または祖先がこの地域で暮らしてきたことに改めて思いを馳せてみるのが大切ではないか。

・生まれ育った地域は若いときに意識しなくても、いずれ懐かしむ時代が必ずやってくる。生徒が今すぐに地域社会への貢献や地域との交流をする必要はないと考える。

・生徒たちがふるさとの良さに気づかないままに都会に出て行くことがないように、学校にはこうした研究を通じて地域の良さ（歴史文化）を実感させる配慮はお願いしたい。

・教師の側が率先して地域社会への貢献及び交流することが、生徒たちへの指導に説得力を持たせると思う。

## 7. まとめ

今回の研究では、郷土の史跡である九戸城を研究することにより、地域の施設やそれに関わる方々と交流することができた。また、成果をあげることで学習内容を知ってもらい、本科を身近に感じてもらうことができたようだ。年度をまたいで地域イベント参加により、研究内容が学年を超えて科や校内に広く浸透した。更に学校外の多くの方々と共有することができた。

こういった学習をきっかけに地域の方々と関わる場をつくるとともに、アンケートにもあった、教員である私達が積極的に地域と関わり、協働で生徒の支えになればと実感した。

本研究を行った生徒は九戸城を身近に育ってきたが、自ら歩き研究することにより、郷土に対する想いがさらに強くなったようである。地元に興味を持つことでいずれは地元に戻り、土木のみならず様々な意味で発展に寄与できればと思う。

卒業後の彼らは二戸市内と岩手県内に就職・

進学したが、時々学校に顔を出してくれている。「今、課題研究について振り返って思うことは…」

・みんなで協力する大切さを学び、団結力が深まった。

・今まで深く知ることがなかった地元のことを調査して、地元に興味をもつことができた。

・他の人にも知ってもらって、地元に残りたいという人が増えてほしい。

## 8. おわりに

本科は平成18年度募集停止となり、現在は3年生14名で活動している。一昨年度は募集停止の廃止を求めて、生徒が署名活動を提案し、PTAも活動に参加、要請活動を行った。保護者の中には、何故都市工学科が無くなってしまったのか、中学生の子供が入学を希望していたのに…という声が聞かれ、改めてこれまでの本科の活動を地域の方々が理解してくださっていたことと、多くの方々が閉科を惜しんでくださっていることを知り大変嬉しかった。たとえ在学中に地域社会のありがたさを感じる機会がなくても、地元を離れ10年後、20年後に思いを馳せることがあったなら、まちづくりに参加してくれているならと考える。



平成18年度岩手県工業クラブ発表会